

逍遙館長のところ

「パリ万博・その裏で、のころ」

2月27日 逍遙 

今日2月27日は、幕末から明治維新への大転換の年に、第2回パリ万博が開幕した日です。当時の日本からは、幕府と佐賀藩、薩摩藩などが参加しましたが、幕府の意図に反して薩摩藩が独自の展示場を確保したため、幕府と薩摩藩の政治抗争がそのままパリを舞台に繰り広げられることとなりました。

万博開幕に間に合わなかった幕府使節団に比べ、開幕二ヶ月前にはパリ入りするなど、薩摩藩側は「周到な諸準備」と「情報戦」等で「薩摩外交」の勝利を印象づけましたが、その裏には、琉球や英国留学生等を介し、政州の事情や政州人の趣向に予め精通していたこと（⇒ その後の白薩摩を始めとする薩摩焼の大輸出時代創出につながっていく）や、仏のモンブラン伯爵等の人的ネットワークを駆使して、「薩摩琉球国勲章」を製作・贈呈したり、新聞各紙に薩摩寄りの記事掲載を働きかけるなどの戦略があったのでした。

いずれの時代も、勝利の裏にはやはり、「卓越した情報収集力と分析力」、
「大胆かつ慎重な戦略」、そして「戦いの本質としての謀略」、でしょうか。

◎ 次回の予定 「門は語りかける、のころ」

